

2月放送総局長定例記者会見要旨**(1) 2020年度 国内放送の番組改定 (木田放送総局長)**

総合テレビは、基幹波として、安全と安心を守る報道に全力をあげて取り組むとともに、インターネットによる放送の常時同時・見逃し番組配信が始まろうとする新たな時代、公共メディアへの進化に向け、公平・公正で社会の指針となるニュースや番組、娯楽・文化・スポーツなどの多彩な番組を充実させる。東京オリンピック・パラリンピックに関しては、数多くの競技中継や関連番組を通じて、大会の盛り上げに寄与する。また、今後のNHKの“顔”となる番組やデジタル技術を活用した番組の開発にも取り組む。まず、「東京オリンピック・パラリンピック開催の機運を高める編成」について。競技の見どころや代表選手の大会にかける思い、東京大会の魅力を、水曜午後7時台で月1回放送する「2020スタジアム」などの番組で発信していく。1万人以上がランナーとして参加する聖火リレーは、「あさいち」、「ニュースシブ5時」、「土曜スタジオパーク」「どーも、NHK」などの番組の中で、生中継で伝える。

「NHKスペシャル」では、東京オリンピック・パラリンピックから先に続く10年の羅針盤となる大型シリーズ「2030—未来への分岐点—」がスタートする。次世代に確かな未来を残すために、この先10年になすべきこと、必要なことを、視聴者の皆様とともに考えていく番組。

土曜の深夜0時台は、月1回程度、「よなよなラボ」を放送。音楽、就職、世代間コミュニケーションなどのさまざまなテーマをお届けしてきた「テングちゃん」をリニューアルし、ネットとテレビを融合させ、社会の課題を解決する新たな視点、ユニークなアイデアを視聴者の皆様とともに考え、提案していく番組となる。

Eテレは、子ども・若者をターゲットにした番組や、幅広い世代の「知りたい」「学びたい」に応える番組を強化する。

月曜と火曜の午前9時台は、新入学児童が学校生活になかなかなじめないという“小1プロブレム”に向き合う番組「すたあと」を新設する。月曜から木曜の午後6時台は、「天才てれびくん」の新シリーズが始まる。これまで以上に、全国の子どもたちが楽しみながら生き方を学べる番組をめざす。

月曜から木曜の午後11時台には、東京オリンピック・パラリンピックで訪れる外国の人たちにも対応できる、簡単おもてなしフレーズを学んでもらう「おもてなし 即レス英会話」を新設。金曜午後9時台には、世界中の人たちによるSNSのつぶやきを読み解く英語情報番組「世界にいいね！つぶやき英語」がスタートする。

BS1は、スポーツを柱としているチャンネルにふさわしく、東京オリンピック・パラリンピックに向けた番組を充実させる。

日曜の夜、オリンピックをめざす各国の選手に密着した「世界はTOKYOをめざす」は100分のスペシャル番組にリニューアルし、パラリンピックも「パラ×ドキッ!」「武井壮のパラスポーツ真剣勝負」などで、競技の魅力をたっぷりお伝えする。

さらに、地域の情報発信にもより一層力を入れる。木・金・土曜の夜、NHKの各局が制作したえりすぐりの番組を「東北推し!」「北海道推し!」など、地域名をつけてお伝えする。

BSプレミアムは、個性と見応えを追求した多彩な知的エンターテインメント番組をお届けする。歴史や大自然、芸術、教養、趣味など、さまざまなジャンルで、格別な満足感を提供することをめざす。

特に、土曜夜の「スーパープレミアム」は、BSプレミアムならではのスケール感にこだわった大型特集番組を月1回程度編成する。

平日の夜間帯は、謎と恐怖に満ちた事件、伝説を徹底検証する「ダークサイドミステリー」を好評に応えて編成。また午後11時台は「うたう旅～骨の髄まで届けます～」、「レギュラー番組への道」を新設し、一日の疲れをいやす時間帯を提供する。さらに月曜から水曜の午後6時台には、大河ドラマ「いだてん」

を、オリンピック前に一挙再放送する。

BS 4Kでは、多くの番組で、総合テレビやBSプレミアムとの4K同時放送を開始し、いつもの番組を、超高精細映像でさらにお楽しみいただく。

平日朝7時30分からは、4Kで初めて制作する連続テレビ小説「エール」を、BSプレミアムと同時放送する。日曜朝に先行放送している大河ドラマ「麒麟がくる」は、新たに日曜午後8時から、総合テレビと同時放送する。

東京オリンピック・パラリンピックに向けては、5月から7月にかけて、日曜午後0時台に「聖火リレーハイライト」を放送し、盛り上げていく。

また、火曜午後9時台と日曜午後7時台に4K独自番組の放送枠を新設する。

BS 8Kでは、日曜に、8K超高精細映像を生かした見ごたえのあるスペシャル番組を放送する。

4月は日本の良さを再発見する「ディスカバージャパン」をテーマにした番組を、5月は数々の世界一流の「クラシックバレエ」の舞台や、「宇宙」の番組を特集する。

東京オリンピック・パラリンピックでは、世界最高水準の放送で、視聴者の関心の高い競技を中継し、新時代のスポーツ映像体験をお届けする。

8Kクオリティーで撮影・記録し、後世に伝えようという取り組みにも力を入れる。仙台局では震災10年に向けて「震災遺構」を、広島局は戦後75年に向けて「被爆遺構」を8Kで記録し、“8Kの公共価値”を高める。

ラジオ第1では、平日午前の情報番組をリニューアルし、40代から60代の「オトナ世代」がより身近に感じられる番組「らじるラボ」を放送する。また、金曜夜には、中高年世代から高い支持を得ている高橋源一郎さんがパーソナリティーを務める教養番組「飛ぶ教室」が新たにスタートする。

ラジオ第2では、「ロシア語ニュース」「タイ語ニュース」を新設し、多言語ニュースゾーンの充実を図る。また、木曜と金曜には、古典芸能、古典文学の楽しみ方を若い世代に広く知ってもらおう番組「おしゃべりな古典教室」を新設する。

FMでは、クラシック音楽に鉄道やアニメなどさまざまなテーマを掛け合わせ、クラシック音楽を気軽に楽しむ音楽バラエティー「×（かける）クラシック」を新たに放送する。

NHKでは、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催される2020年、「挑戦に、リスペクトを。」というキャッチフレーズを掲げている。新年度も「挑戦」を応援する番組や、「挑戦する人」を取り上げる番組を多く放送していく予定なので、ご期待いただきたい。

(詳細は報道資料を参照)

(2) 2020年度 国際放送の番組改定 (正籙副会長)

テレビ国際放送「NHKワールド JAPAN」は、日本に対する世界の関心が一気に高まる2020年、視聴者のニーズを捉えながら、日本の公共メディアとして、正確で公平・公正な情報を世界に発信する。

「Where We Call Home」は、日本に住む外国人の人口が過去最高の273万人となるなか、彼らが地域の中でどんな役割を演じ、どんな悩みを抱え、何を支えにそれらを乗り越えようとしているのか、多文化共生の取り組みを描く。

「Deeper Look from NY」は、世界のハブ・ニューヨークで、政治・経済、社会問題、文化・芸術など、さまざまな分野の専門家と対話し、専門家ならではの深い話を引き出す。

「Doctor's Insight」は、海外からの注目が高まっている日本の医療について、具体的な健康対策や最先端の医療情報を交えながら、コンパクトに伝える。

「Culture Crossroads」は、東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンに関する話題や、身近で役立つ防災情報、各国の大使が語る日本の魅力など、多文化・多言語の共生社会で役に立つ情報を発信する。

インターネットでは、災害時の情報発信をさらに充実させるほか、ライブストリーミング、VOD、SNSを融合した多言語サービスを実現する。AIによる自動翻訳を活用した多言語字幕付与サービスを実施するなど、世界のより多くの方にNHKの豊富なコンテンツをお届けする。

(詳細は報道資料を参照)

(3) 2020年度 番組キャスターについて (木田放送総局長)

2020年度の各番組のキャスターが決まった。

まず主なニュース報道番組について。「おはよう日本」は、女性キャスターが大きく変わる。平日は、新たに桑子真帆アナウンサーが、高瀬耕造アナウンサーとともに担当する。ニュースをいち早く、わかりやすくお伝えするのはもちろん、二人の軽快なやり取りもお楽しみいただければと思う。そして、5時台6時台は、新たに中山果奈アナウンサーと、森下絵理香アナウンサーが担当。一日の始まりをフレッシュなキャスターがさわやかに伝える。

「ニュースウオッチ9」は、新たに和久田麻由子アナウンサーが担当する。これまで朝のニュースで活躍してきた和久田アナウンサーが、今度は夜の番組で、有馬嘉男記者とともにニュースの背景を掘り下げていく活躍を期待している。「ニュースウオッチ9」では、全国各地の取材に飛び回るリポーターに新たな男性アナウンサーが入って、見応えが増すよう努めていく。

続いて、総合テレビの、キャスターが交代する主な番組について。夕方のニュース情報番組「ニュース シブ5時」は、新たに阿部渉アナウンサーが担当する。これまで「ニュース7」から「紅白歌合戦」まで、さまざまなジャンルの生番組を担当してきており、その豊富な経験を生かして、「シブ5時」でもドキドキ感ワクワク感を大切に伝えてほしい。

平日土曜夜の「プラタモリ」は、新たに浅野里香アナウンサーが担当する。若手アナウンサーと、タモリさんがどのような旅を繰り広げるのか、楽しみにしていただければと思う。

午後6時10分からの「首都圏ネットワーク」は、新たにメインキャスターを高井正智アナウンサー、サブキャスターを林田理沙アナウンサーが担当する。さらに、フィールドキャスターとして原大策アナウンサーと浅野里香アナウンサーが加わる。とりわけ午後6時半からは、大都市圏の東京・神奈川・埼玉・千葉の1都3県のニュースを、地域の身近な視点で掘り下げて伝えていく。

Eテレの「世界にいいね! つぶやき英語」は、SNSに投稿される世界の人々のつぶやきを英語で読み解くことで、一味違った今の世界が見えてくる情報番組。英語が得意な保里小百合アナウンサーが担当する。

BS1の「国際報道2020」は、キャスターに今井翔馬アナウンサーが加わって、海外取材経験の豊富な池畑修平記者とともに、最新の国際ニュースをわかりやすく伝える。

BSプレミアムでは、「新・BS日本のうた」の司会が田村直之アナウンサーに交代する。日本人の心に深く残る歌の数々や、「日本のスタンダード・ナンバー」ともいべき名曲を紹介する音楽番組。

ラジオ第1の平日朝8時30分からの新番組「らじるラボ」は、「ラジオをスマホで聴く時代」にフィットした音声コンテンツを研究したり、音だから面白い・楽しい企画を試してみたりする実験的な番組。

進行役は、吾妻謙アナウンサーが担当する。

(詳細は報道資料を参照)

(4) 東京オリンピック聖火リレー詳細 (木田放送総局長)

東京オリンピック聖火リレーがいよいよ来月・3月26日、福島県からスタートする。NHKは47都道府県の魅力が満載の聖火リレーをさまざまな番組で取り上げ、大会本番への機運を盛り上げる。

3月26日のスタート前から、特集番組や特設ニュースを放送していく。2月24日の「おはよう日本」では、間近に迫る聖火リレーの最新情報を特集で詳しくお伝えする。3月12日には、ギリシャ・オリンピックでオリンピック聖火の「採火式」が行われる。現地の生中継映像を中心に、「ニュース7」などで式典の様相を伝える。ギリシャ国内でのリレーを終えた聖火は、19日、アテネで日本側に引き渡され、翌20日、いよいよ宮城県の航空自衛隊松島基地に到着する。この様相も生中継で伝える。

そして3月26日のグランドスタート。東日本大震災からの復興を象徴する場所、福島県のJヴィレッジで行われる式典と、最初の聖火ランナー・なでしこジャパンの皆さんの出発の様子を伝える。また夜7時30分からは、オリンピック聖火リレーの見どころを紹介する特別番組も放送する。

聖火リレーをハイライトでお伝えする番組も新設する。一つは「聖火リレーデイリーハイライト」。1日の聖火リレーの様子を5分にまとめ、総合テレビで土日も含め毎晩放送する。またウイークリーの番組として「聖火50ボイス」を放送する。聖火ランナーや応援する人たち、出迎える地域の人たちなど50人の声でつづる番組。

さらに4Kの高精細映像でお届けする「聖火リレーハイライト」をBS4Kチャンネルでウイークリーで放送する。

「NHKのど自慢」と聖火リレーのコラボもある。3月29日の「のど自慢」は、栃木県佐野市からの生放送を予定している。ちょうどこの日、聖火リレーが栃木県を走る。大会組織委員会、栃木県聖火リレー実行委員会などの協力により、「のど自慢」会場となる佐野市文化会館が聖火リレーのルートになった。

「のど自慢」の生放送中に、聖火と聖火ランナーが登場する。

また「ごごナマ」「シブ5時」といった定時の生放送番組でもお伝えするほか、NHKオンラインにある「NHK東京2020オリンピックサイト」の中でライブストリーミングを実施するなど、さまざまな形で聖火リレーをお伝えしていく。

(詳細は報道資料を参照)

(5) 東日本大震災関連番組 (正籙副会長)

3月11日で東日本大震災から9年となる。NHKでは、ことしも3月に東日本大震災関連の番組を集中的に放送する。

総合テレビでは、3月11日前後にNHKスペシャルを5本放送する予定。

このうち11日の「震災9年 “変貌”する街で何が」では、大きな被害を受けた東北沿岸部で完成まで1年を切った高速道路“復興ハイウェイ”の建設で、大きく影響を受ける周辺地域取材し、“復興後の被災地”を描く。

14日に放送する「“奇跡”の子と呼ばれて」では、学校が津波にのみ込まれた時、自主的に避難してほぼ全員が助かり“釜石の奇跡”と報じられた子どもたちの今を見つめる。

このほか、総合テレビでは、3月7日に「未来へ しあわせ運べるように」を放送する。阪神淡路大震災の復興を願い、神戸の小学校の先生が作った合唱曲「しあわせ運べるように」が、福島の子供たちに歌い継がれ、二つの被災地の交流が続いてきた。歌を通して、子供たちがどのように支え合い、どんな思いを伝えてきたのか、見つめていく。

8日には「“死者ゼロ”を目指せ～デジタル新時代の情報発信とは～」を放送する。NHKとフジテレビ、そしてYahooが垣根を越えて、災害時に犠牲者を一人でも減らしていくために、メディア同士が協力できること、連携できることを真剣に考える、コラボ特集。

また11日には、生放送の情報番組「ごごナマ」を3時間の震災特集としてお送りする。東北ゆかりのゲストを招き、自らの体験や思いを語ってもらうほか、中継やVTRで、当日の現地の表情や、復興の現状や課題を見ていく。このうち、関連イベントが行われる日本科学未来館からの中継では、8Kで撮影した震災遺構などNHKが蓄積してきた映像や、震災で失われた街を復元した模型などを紹介。政府主催の追悼式も、この時間の中でお伝えする。

このほか、Eテレの「ハートネットTV」では、11日の放送で、震災で行方不明になった人の家族や、大きく様変わりしたふるさとにとまどう住民など、震災から9年がたっても消えない被災者の「喪失感」にどう向き合うかを考える。

またBSプレミアムでは、「あさいち」のリポーターとしてもおなじみの篠山輝信さんが、ことしもバスや列車で東北の被災地を縦断する「篠山輝信×震災9年の東北旅」で、震災から9年になる地域の変化や住民の皆さんの今を見つめる。

(詳細は報道資料を参照)

(6) 「絶景アドベンチャー 聖なるナハニ川 500キロの旅」 (鈴木副総局長)

BS4Kでは3月15日、「絶景アドベンチャー 聖なるナハニ川500キロの旅」をお届けする。カナダ北西部を流れるナハニ川は、手付かずの大自然が広がる絶景の宝庫。川沿いには長い間、先住民のデネ族が暮らしていたが、19世紀、町に移住させられ英語を話すことを強制されて、伝統や文化の多くが失われた。

番組では、2018年、伝統を復活させようとデネ族の長老が若者たちを集めて行った、「聖なる川下り」の挑戦に密着した。先祖伝来の方法で「ヘラジカの皮を使った船」をつくり、上流から500キロを下るおよそ2週間の旅を、美しい森や巨大な滝など絶景を紹介しながら追った。大自然と共存する人々の思いや伝統文化の大切さを伝える番組。

(詳細は報道資料を参照)

(7) NHK就活生応援キャンペーン「コワくない。就活」 (鈴木副総局長)

NHKは、就職活動を行う“就活生”を応援するキャンペーンを今年も実施する。

キャンペーンを通して、就活生に役立つニュースや情報、癒やしのコンテンツを集中的に提供し、これから社会に出ようとする就活生を応援していく。昨年に引き続き、就活生の皆さんが子どものころに親しんだEテレの「がんこちゃん」が応援キャラクターを務める。

まずは3月に2つの応援番組を放送する。3月9日から13日に総合テレビで放送するドラマ「就活生日記」は、就活を取り巻く最新キーワード、「学チカ」「0泊3日」「親カク」などを織り込んだ、笑いあり涙ありのストーリー。忙しい就活の合間にも見やすい5分のミニドラマを5夜連続で放送する。

また、1月に好評を博した「面接室へGO!」のシーズン2を放送。普段見ることがない企業などの「面接室」をテレビ初公開し、伝説の実演販売士・レジェンド松下さんが、面接室に隠された就活生へのメッセージを伝える。

その他、地方で就活をがんばる皆さんを応援するために、福井大学の就活支援をモデルにした地域発ドラマ「シューカツ屋」をBSプレミアムで放送するほか、ラジオ第1では、「キャンパスライブ」で、東海・北陸の大学生とともに「シゴト」について考える。

ウェブでは、就活生向けサイト「大学生とつくる 就活応援ニュースゼミ」を展開している。企画や取材に、大学生にも学生リポーターとして参加してもらい、面接や時事問題の対策、業界研究などに役立つ記事を毎日配信している。

あわせて、公式ツイッター「就活応援NHK」でも、就活生の気持ちに寄り添った情報やコンテンツをお届けする。

(詳細は報道資料を参照)

【出演者への確認書について】 （木田放送総局長）

去年、大河ドラマで出演者の不祥事が続き、「麒麟がくる」放送開始日が遅れるなど、視聴者の皆様に大変ご迷惑をおかけしました。このほど対応策がまとまりましたので、ご説明いたします。

NHKでは、来年度の新番組から、「大河ドラマ」「連続テレビ小説」を含む定時番組に出演していただくレギュラー出演者について、正式な契約書を交わす前に、違法薬物や反社会的勢力と関わりがないことを確認していただき、その旨を書面でご提出いただくことといたしました。

このうち薬物については、今後、刑事罰を科せられたり、捜査機関に嫌疑を持たれたりするおそれがあるような事実がないこと、また現時点で違法薬物を使用または所持していないことを誓約していただく内容としています。反社会的勢力とのかかわりについても、契約書の内容を前倒ししてお示しし、確認させていただきます。

NHKは、公共放送として反社会的な行為を容認することはできません。出演者については、これまでも所属事務所を通じて事前に確認作業を行ってききましたが、より確実に行っていきます。